

議 事 録 (案)

平成 25 年度第 1 回 ISO/TC 2 国内委員会

1. 日 時 平成 25 年 10 月 4 日 (金) 14:00～17:00
2. 場 所 機械振興会館 6 階 62 号室
3. 出席者 (順不同・敬称略)

氏 名	所 属	氏 名	所 属
萩原正弥	名古屋工業大学 (委員長)	武藤 治	メイラ (株)
根本俊雄	元東京大学 (幹事)	吉岡裕之	(株) フセラシ (代理: 鈴木)
大橋宣俊	元湘南工科大学	高木勝美	(株) 青山製作所
来住 健	いすゞ自動車 (株)	大磯義和	日本ねじ研究協会
大塚 利明	(株) 本田技術研究所	中林賢司	日本ねじ研究協会
西田裕之	(株) 佐賀鉄工所		
木田 秀樹	(株) 互省製作所		

4. 配布資料

- 資料 1 委員名簿
- 資料 2 平成 24 年度第 2 回 ISO/TC 2 国内委員会議事録 (案)
- 資料 3 平成 24 年度 ISO/TC 2 国内委員会事業報告
- 資料 4 NWIP, WD, CD, DIS 及び FDIS 投票の報告 (根本幹事)
- 資料 5 ISO / TC 2 / WG13 (座金及びねじなし部品) N28 会議 10 月 4 日議題
ISO / TC 2 / SC 7 (参照規格) N258 会議 10 月 15 日～16 日議題
ISO / TC 2 / SC 11 (おねじ部品) N67 会議 10 月 16 日議題
ISO / TC 2 / SC 14 (表面皮膜) N41 会議 10 月 17 日議題
ISO / TC 2 / SC 12 (めねじ部品) N41 会議 10 月 18 日議題
ISO / TC 2 (締結用部品) N344 会議 10 月 18 日議題
- 資料 6 シドニー会議出席報告書 (2013/03/07 付けメールに添付)

5. 議 事

- 5.1 委員長及び幹事の互選 自己紹介を行った後、委員長及び幹事の互選の結果、委員長に萩原委員(名古屋工業大学)が、幹事に根本委員(元東京大学)が選出された。
- 5.2 配付資料の確認 N 文書以外の資料に番号を付した。
- 5.3 前回議事録の確認 前回議事録案を通読し、確認した。
- 5.4 報告事項

①事務局から、資料 3 に基づき平成 24 年度における ISO / TC 2 (締結用部品)国内委員会

の活動状況について報告があった。

②根本幹事から、資料4に基づき、2012年12月10日開催の第2回ISO/TC2国内委員会以後に回付されたNWIP, WD, CD, DIS及びFDIS投票の投票結果とその措置について報告があった。

投票の内訳は、TC2/SC7(参照規格)関係が8件(NWIP:7件, CD:1件)ですべて賛成投票をした。TC2/SC11(おねじ部品)関係が2件(FDIS)ですべて賛成投票した。TC/SC14(表面皮膜)関係は1件(NWIP)で反対投票した(投票結果では承認)。また、ISO/TC2関係定期見直しの回答投票について報告があった。

③萩原委員長から、NWIPの投票では、賛成であれば必ずコメントをつけないと受け付けてもらえない(反対の場合は、不要)ので、形式的なものでもよいから必ずコメント欄を埋めるようにという注意があった。

④萩原委員長から、今回の定期見直しの対象となっているISO 272(二面幅)については、日本から改正が必要と投票しているが、技術的優位性の根拠が出てこなければパリ会議で取り下げたい旨の発言があった。

5.5 TC2関係会議議題の対処方針の検討

①萩原委員長から、回付された議題に基づいて、TC2(WGを含む)、TC2/SC7、TC2/SC11、TC2/SC12及びTC2/SC14の主要議題の内容について説明があった。それぞれの議題へのコメントがあれば、議論の材料としたいので会議開催日までにメールを送って欲しい旨の要請があった。特に、TC2/SC7ではCD16228(テストレポート)、WD 3269(受入検査)、ISO/TC2/SC11ではPWI 14497(伸びボルト)、ISO/TC2/SC14ではISO 4042(電気めっき)についてN 45及びN 46の文書を事務局から各委員に送付するので、12月中旬までにコメントを求めた。(10/4にN文書送付済み)

②TC2/WG 17関連で、NWIP 3506-5(耐熱ステンレス鋼製ねじの機械的性質)が急に出てきたので、今回の議題にはなっていないが、検討しておく必要がある。

5.6 TC2関係会議出席者の決定

萩原委員長の出席を決定し、他にも会議への出席を希望する委員は、氏名、所属等を事務局まで連絡する。

6 その他

①今後の取り組み方に関して、今後、日本からのISOへの提案を検討する上で、JISの中でISOをどう位置付けるのかという議論が必要である旨の意見が萩原委員長からあった。また、根本幹事からも研究協会内に設置されている標準化委員会においても、国際標準化を見据えたJISは、どうあるべきかの議論が必要ではないかとの意見があった。

②次回の委員会は、パリ会議終了後に関係者の調整を行い、開催することとした。

以上